

第7章

公式表現の「変形」と「偽装」

一瞬おなじみの「公式表現」であるように見えるものの、実はそうではないというケースが多々あります

Scientific work is not easy, and a really deep idea is unlikely to come in the hour or so that one may spend talking with a particular person on a particular topic.

ここで、so that という2語のつながりが目に入ってきたかもしれません。そして、「...するように；その結果...」と反射的に解釈したのではないのでしょうか？ しかし、ここでのsoは“数字+ or so”「...かそこら」であり、thatはthe hour を先行詞とする関係代名詞です。（次のようにthat節内でspendの目的語が欠けています）

... in the hour or so [**that** one may spend ● talking with
(関代)
a particular person on a particular topic].

「科学の研究は簡単ではなく、本当に深い考えは、ある特定の人とある特定の
問題に関して話す一時間くらいの間には生まれてはこない」

この章では、このように公式表現と決め込むことで誤読してしまう恐れのあるさまざまな項目を見ていきます。